ISSN 0917-7604
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/

東光原

熊本大学附属図書館報

Kumamoto University Library Bulletin, No.34, Oct. 2002

- 異説「巌流島」
- 「熊本大学ハーン展示会・講演会」のこと
- 貴重資料展「永青文庫の中の『明治維新』」

魯西亜人応接図（永青文庫蔵熊本大学附属図書館寄託）

異説「巌流島」

吉村豊雄

吉川英治氏の小説『宮本武蔵』のクライマックスは「巌流島の決闘」である。佐々木小次郎との試合に勝った武蔵が舟島（巌流島）を舟で離れる場面で小説は終わっている。吉川氏の小説は、武蔵死後、武蔵を敬愛する弟子筋の人たちによって作られた武蔵の伝記的書物『二天記』をもとに創作されている。『二天記』自体創作性が高いが、同書によれば巌流島の果し合いは慶長十七年（1612）に行われている。慶長十七年といえば徳川政権と豊臣家との対立が表面化する時期である。

私は、以前から慶長末年という政治的に微妙な時期に、一介の牢人者が大名家をまき込んで、近くの無人島で御前試合形式の果し合いを行うなど、歴史的にもなり立ちえないと考えていた。今もその考えに変わりはない。ただ最近、永青文庫所蔵（熊本大学附属図書館寄託）の『沼田家記』を検討するに及んで、果し合いの事実を見直すようになった。『二天記』や吉川英治氏が描くような果し合いとは違う、いわば異説「巌流島」の話しをしたい。

まずは『沼田家記』の記述を紹介しておこう。同書は、主に細川家重臣沼田家の祖沼田延元の事歴をまとめたものであるが、豊前時代の事歴として巌流島の話しが出てくる。大筋はこうである。武蔵と小次郎は豊前細川領の小倉で「兵法の師」をしていた。ある年、双方の弟子たちが互いに師の「兵法の勝劣」を主張し、豊前と長門の間の「ひく嶋」（彦島、舟島・巌流島）で試合をすることになる。武蔵が勝負に勝ち、小次郎は打ち殺されるが、武蔵方は一対一で勝負するという約束に反して数人の弟子がひそかに島に渡り、蘇生した小次郎をよってたかって打ち殺した。小倉にいた小次郎の弟子たちが事の実相を知り、武蔵を討ち果たせと「大勢」で島に押し寄せた。逃れがたいと思った武蔵は、門司城に逃げ込み、城代沼田延元に身柄の保護を懇願した。延元は身柄の保護を請け合い、その後馬乗の家臣に鉄砲衆の護衛を付けて、豊後の「武蔵親無二」のもとに送り届けた。

以上が話しの大筋であるが、延元の事歴として誇張するでもなく、城代として遭遇した事件を簡潔に記述しており、作為を余り感じない。また歴史的にも成り立ちうる内容である。『沼田家記』の内容で注目されるのは、①武蔵と小次郎が豊前小倉で「兵法の師」をしていること、②「ひく嶋」で武蔵と小次郎が果し合いを行っていること、③門司城代沼田氏が武蔵の身柄を保護し、豊後へ護送していること、④豊後に「武蔵親無二」が存在すること、以上の諸点である。まず②～④について、最後に①について論及しよう。

ところで、ここでも簡単に「巌流島の決闘」などといっているが、果し合いは領域を統治する大名権力からみれば、果し合いという名の自領内で起こった乱闘・殺人事件である。当然刑事罰の対象となる。『沼田家記』も主に武蔵方の言い分をもとにしていると思える。武蔵は小次郎との勝負に勝っているが、死者に口なし、無人島で何が起こったのか、今となってはわからない。武蔵と弟子たちが集団で小次郎をなき者にした可能性も否定できない。武蔵と小次郎が「豊前と長門の間」の「ひく嶋」を果し合いの場所に選んだのは、ここが大名側（細川・毛利）の統治範囲の曖昧な無人島であったからと推測される。

次に、武蔵が小次郎の弟子たちに追われて門司城の沼田延元のもとに逃げ込んだのは、沼田氏と武蔵がある程度見知った間柄であったことを物語る。沼田氏は武蔵一行

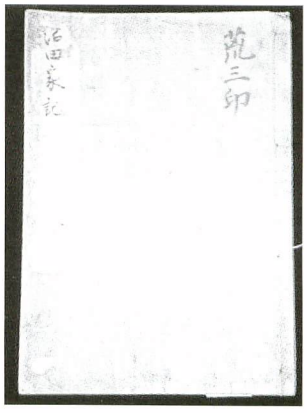
をひとまず城中に保護するが、これは藩主忠興の判断を仰ぐための措置でもあろう。当時の政治形態からみて、刑事事件相当の措置は忠興の命令で行われている。藩主忠興は、「ひく嶋」が自領ではないこと、後述のごとく隣藩の藩主木下延俊とは親しく、武蔵の父無二が身近につかえていることを考慮して、領外追放処分の形をとり、豊後に護送したものと思える。

その際に注目されるのが豊後にいる武蔵の父無二の存在である。私が『沼田家記』の史料的価値を評価するのは、細川家が武蔵の身柄を豊後（木下家）の無二のもとに護送したと記述し、この無二の存在を『木下延俊慶長（十八年）日記』において確認しうるからである。事件の事後措置としても妥当である。

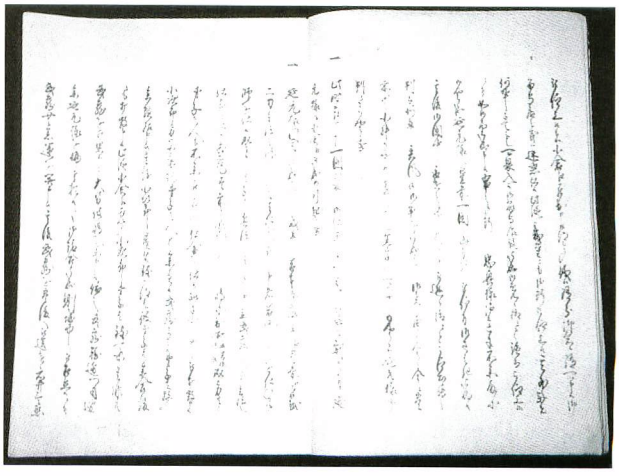
豊後日出藩の木下延俊は豊臣秀吉の正室ねね（北政所・高台院）の甥であり、妻は細川藤孝（幽斎）の娘である。義兄忠興（小倉藩主）の世子忠利（豊前中津城主）との交友は深く、両家の間柄はきわめて緊密である。日記によると、木下延俊は、慶長十八年、江戸・駿府からの帰路、京都に四ヵ月間滞在し、在京中の五月二日に「無二」と対面し、知行を与え、家臣として召し抱えている。無二は能の観世道叱らとともに毎日のように延俊のもとに祗候し、延俊の話し相手、芸能・武芸の相手をする御伽衆として近侍しており、豊後日出では何度か「兵法」（剣術）の相手をしている。恐らく無二は当時京都において「兵法」をもって知られ、武芸好きの木下延俊が召抱えに動いたものとみられる。

武蔵は無二を養父としている。武蔵にも後に小倉藩小笠原家の家老となる伊織をはじめ何人かの養子の存在が想定されている。無二・武蔵は有望そうな若者を「養子」とし、大名家に接触したとみられるが、無二が武蔵に見込んだのは「兵法」の能力であろう。武蔵は、京都において、無二の「兵法」の評判を背景に大名家と接触し、細川家を頼って九州小倉に下ったものとみられる。武蔵は小倉において細川家との接触を強め、慶長末年の時代状況と父無二が木下家に召抱えられたことを背景に自らの「兵法」の評価を一気に高め、仕官への道を切り拓こうとして小次郎との果し合いを仕組んだものとみられる。武蔵と小次郎が細川家との関係をめぐって対立していたことも想定される。ところが巌流島での果し合いの実相が小倉に伝わり、小次郎の弟子たちに追われる身となる。細川家との関係も断たれ、恐らく無二もまもなく木下家を辞したものとみられる。武蔵にとって長き漂泊が始まる。

（よしむら　とよお　文学部教授）



沼田家記（永青文庫蔵熊本大学附属図書館寄託）



「熊本大学ハーン展示会・講演会」のこと

西　川　盛　雄

今年の夏期休暇の間、8月7日（水）から24日（土）にかけて私はヨーロッパにおけるラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の生誕から幼少時代、学校時代にかけての足跡をたどるべくレフカダ（ギリシャ）、ダブリン（アイルランド）、ダラム（イングランド）の三つの町を訪ねた。それぞれ学術的にも重要な場所である。訪問先はそれぞれ（1）レフカダでの市庁舎、詩人公園、パラスケヴィ教会、ハーン生家、ハラモグリス図書館、（2）ダブリンでの作家ミュージアム、4つそれぞれのハーン旧居と関係者からの談話・聞き取り、（3）ダン・レアリーの東・西の波止場とサンディコーヴの海岸、（4）ダラムでのアショー・カレッジなどを含んでいる。とくにレフカダはハーン生誕の地であり、スクリロス市長から正式な招待状をいただいており、こちらからは熊本市長の親書と資料を預かり、さらに本学図書館長と五高記念館長にお願いしてメッセージと資料をいただきこれらを無事レフカダ市長に直接お渡しすることができたことは幸いであった。

帰国後一ヶ月、9月19日（木）から27日（金）まで図書館自由閲覧室においてラフカディオ・ハーンの展示会と講演会を行った。主催は熊本大学附属図書館と学術資料調査研究推進室、協賛は熊本大学小泉八雲研究会である。五高記念館からも資料提供があり、協力を得ることができた。オープニングの19日は文学部教授の金原　理先生による「小泉清（八雲の三男）の話」の講演、27日の最終日は教育学部の外国人教師のアラン・ローゼン先生による「ハーンの最後の日々」の講演で締めくくった。展示会、講演会ともども一般の方々の参加もあり、講演会では質問も活発に飛び交い充実したものであった。

この期間を選んだのには理由があった。最終日前日の9月26日はハーンが1904年に亡くなった命日に当たる日である。しかも98回目の命日ということであと2年後には没後100年という節目の年を迎える。いわば今年は二年後に向けたホップ、ステップ、ジャンプのホップに当たる年である。この26日にハーンを偲ぶということは毎年熊本ではなく、ハーンに縁のある他の都市でもなされているのである。

私たちは以前から何度か協議を重ね、五高資料館から資料と図書館所有の貴重な資料と相俟ってハーン作品の初版本はもとより、約120年前、シンシナティ時代にハーンが書いた記事が載っている新聞のオリジナル『シンシナティ・インクァイアラー』『シンシナティ・コマーシャル』の展示、ハーン直筆の試験問題、ハーンが居た頃の町シンシナティ、ニューオリンズの鳥瞰図の風景版画、龍南会雑誌のオリジナル、ハーンの給与資料、石仏や三角西港の写真、当時の五高生の写真、嘉納校長の送別の集合写真などいずれも貴重な資料を展示することが出来た。丁度熊本大学の公開講座「ハーンと漱石」の受講者の方も訪ねて来られ、タイミングよく喜ばれた。

1890年40才で来日したハーンは帝国ホテル支配人だったM.マクドナルドやB.H.チェンバレン先生の世話で横浜から松江（尋常中学）に行った。松江では小泉節と結婚、神話（出雲大社）と水（宍道湖）のある風景のなかでギリシャを思い出していたと考

えられる。その後熊本では嘉納治五郎校長のもと、五高の英語・ラテン語教師として勤め、秋月胤永先生と親交を深め、節との間に長男一雄が生れた。熊本には松江に一年間いた後やって来た。後に在熊中の経験に基づいて『夏の日の夢』『停車場で』『石仏』『柔術』『願望成就』『橋の上』『九州の学生とともに』『生と死の断片』などの作品が生み出されている。

神戸では小泉八雲として日本に帰化し、港町に寄る外国人のための新聞『神戸クロニクル』に記事を書いていた。東京では学長外山正一の努力もあって東京帝国大学の英文学に移った。人事裁量権をもつ「学監」高田早苗の働きがあったのである。しかし、早稲田に移ったその年の9月26日、ハーンは心臓発作で他界したのである。

日本在住14年間はハーンにとっては松江－熊本－神戸－東京（新宿）と移動したが、これは期せずして旧き良き日本の守られているところ（周辺部）から守られなくなりつつあるところ（中心部）への旅であった。明治維新以降新政府の方針で日本の近代化・西欧化の波は加速度的に大きくなった。結果としてハーンは大都会に行けば行くほどそこは逆説的にハーンの心からは離れた場所になっていった。そんな中にも日本を西洋人であるハーンが日本のことを欧米に英語で渾身の力を振り絞って紹介していっていたことは特筆されていい。

2004年はハーン没後100年である。世界中のハーン縁の場所で節目になる催しが開かれる。ギリシャでもハーンの母親ローザ・カシマチの生れたキシラ島で記念シンポジウムが開ければ嬉しい旨の抱負を元駐日ギリシャ大使だったコンスタンティノス・ヴァシス氏は語っておられた。熊本大学は五高記念館、図書館所蔵の資料、さらにキャンパス全体を含めてハーンに深い関わりをもっている。そして確かに本学はハーンや漱石研究に関して継承・顕彰すべき、そして活用すべき歴史的、文化的財産を豊かにもっているのである。

（にしかわ　もりお　教育学部教授）

熊本大学ハーン展示会・講演会

附属図書館が学術資料調査研究推進室の事業として五高記念館からの協力を得て9月19日（木）から27日（金）まで行ったハーン展示会・講演会は準備期間が短かったにもかかわらず充実した展示会・講演会であった。

展示会には、ハーンの著作の初版本18点、アメリカ時代にハーンが新聞記者として執筆した記事のコピー8点、ハーンの肖像、ハーンの絵画、ハーンの試験問題を始めとする旧制第五高等学校関係資料・写真22点を展示した。新聞記者としてのハーンの記事とハーンのラテン語と英語の試験問題は特に興味を引いたようである。展示会の入場者は153名であった。展示資料には新聞記事のコピーや写真のように大きなものがあり、レイアウトに苦心の跡が見られた。また、展示ケースの関係で初版本の図書の展示がいささか窮屈になったのは残念であった。

オープニングの金原理文学部教授による講演「小泉清の話～八雲の三男～」では、初めに小泉清の生涯について述べ、後半では小泉清の画についてスライドを使いながらフォービズムの影響やその作風について解説された。クロージングのアラン・ローゼン教育学部外国人教師による講演「ハーンの最後の日々」では、1902年から没年である1904年までのハーンの生活を精神面と健康面から考究したもので、絶え間ないストレスに悩まされていたハーン晩年の孤独が浮き彫りにされていた。各講演とも各先生の研究の成果を踏まえた素晴らしい内容であった。今回は講演会を授業と兼ねる形で行ったが、違和感はなく講演会の参加者数の確保を図る上でも効果的であった。

本展示会はハーンの没後100年である2004年まで毎年継続して行う予定である。今回の展示会・講演会の評価に基づき、よりよい展示会を企画したいと考えている。

本学教官寄贈図書（平成14年7月～9月）

★ASPECT熊大コーナーに配架しています★

◆田中道治（教育学部）

精神遅滞児の学習を規定する課題解決能力の発達 / 田中道治著. -- 東京：風間書房，2002.6.
中央館・教官著書コーナー：378.6/Ta,84

◆福澤清（文学部）

再帰性と態および総称性 / 福澤清著. -- 東京：北星堂書店，2002.7.
中央館・教官著書コーナー：835/F,85

◆佐藤誠（法学部）

阿蘇ｸﾞﾘｰﾝｽﾄｯｸ：農と生命(いのち)の危機のなかで / 佐藤誠編著. -- 福岡：石風社，1993.9.
中央館・教官著書コーナー：611.15/A,93

（寄贈日時順）

最近の図書館の動き（平成14年7月～9月）

●研究室返却図書（旧養-ドイツ語）の一部整備完了

大教センター改装に伴う研究室返却図書の整備として、ドイツ語返却図書の内約5,000冊のデータの修正、ＩＤラベル添付、ラベル張替等の貸出整備を完了いたしました。不便な排列でしたが、ＮＤＣ順に配架していますのでご利用ください。残り約2,000冊については、現在データ修正中です。

●鍵付き傘立て設置

中央館では、かねてから利用者からの希望であった鍵付き傘立てを１台（60本入れ）設置しましたのでご利用ください。

●熊本大学インターンシップの実施

中央館では、8月20日（火）～23日（金）の四日間、就業体験のため本学学生３名を受入れました。業務体験としてカウンターでの図書の貸出・返却の業務。相互利用サービスとして、他館との図書の現物貸借、文献複写依頼.受付などの業務。雑誌の受付から書架への配備などの業務を体験してもらいました。

委員会報告（平成14年７月～９月）

図書館運営委員会

■平成14年度第2回(7月11日)
[協議事項]
(1)平成13年度事業計画の進捗状況及び平成14年度事業計画（案）について
(2)電子的サービス推進専門委員会報告（平成13年度）について
(3)第二次電子的サービス推進専門検討委員会（仮称）について
(4)学生用図書購入費等の配分について
(5)図書館備付け外国雑誌（第１種）について
(6)図書未返却者への対応について
(7)その他
・平成14年度教育改善推進費（学長裁量経費）の要求について
・Z39.50評価システムの利用について

■平成14年度第3回(9月9日書面回議)
[協議事項]
(1)国立大学法人熊本大学(仮称)の中期目標・中期計画(附属図書館)について

■平成14年度第4回(9月30日)
[協議事項]
(1)2003年版外国雑誌の予約状況及び購入予算について
(2)その他

医学部分館図書委員会

■平成14年度第1回（平成14年7月16日）
[協議事項]
(1)平成14年度第2回附属図書館運営委員会報告
(2)2002年の外国雑誌の重複調整について
(3)平成13年度決算及び14年度予算について
(4)平成14年度奥窪文庫の選書について
(5)その他

薬学部図書・情報委員会（図書部会）

■平成14年度第1回（平成14年8月5日）
[協議事項]
(1)平成13年度決算報告
(2)平成14年度予算
(3)購読雑誌について
(4)閲覧室および事務室のセキュリティについて

第二次電子的サービス推進専門委員会

■平成14年度第1回（平成14年7月25日）
[協議事項]
(1)第二次電子的サービス推進専門委員会の設置について
(2)昨年度からの持ち越し事項について
(3)電子的サービスに関する経緯と最近の状況について
(4)電子的サービスの広報、ガイダンスについて
(5)その他

日誌（平成14年7月～9月）

7.4	平成14年度日本薬学図書館協議会研究集会（東北薬科大学図書館）
7.16	医学部分館図書委員会
7.8-26	大学図書館職員長期研修（オリンピック記念青少年総合センター）
7.11	平成14年度第2回附属図書館運営委員会
7.24	電子ジャーナルアクセスツールＷＧ設置準備委員会（九州大学）
7.25	第1回第二次電子的サービス推進専門委員会
8.5	薬学部分館図書委員会
8.19-23	熊本大学インターンシップ受入
8.28-30	図書館等職員著作権実務講習会（広島大学）
8.28-29	電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会（大阪大学）
9.2-6	ネットワーク基盤技術研修会
9.9	平成14年度第3回附属図書館運営委員会
9.9-11	県内4機関合同中堅係員研修（国立阿蘇青年の家）
9.12	熊本県歴史資料保存講演会（熊本市産業文化会館）
9.9-13	九州地区国立学校等係長研修（那覇市）
9.19-27	熊本大学ハーン展示会・講演会
9.24	桜山中学校バリヤフリー見学
9.25-27	桜山中学校職場体験学習
9.30	平成14年度第4回附属図書館運営委員会

《 第１９回 》

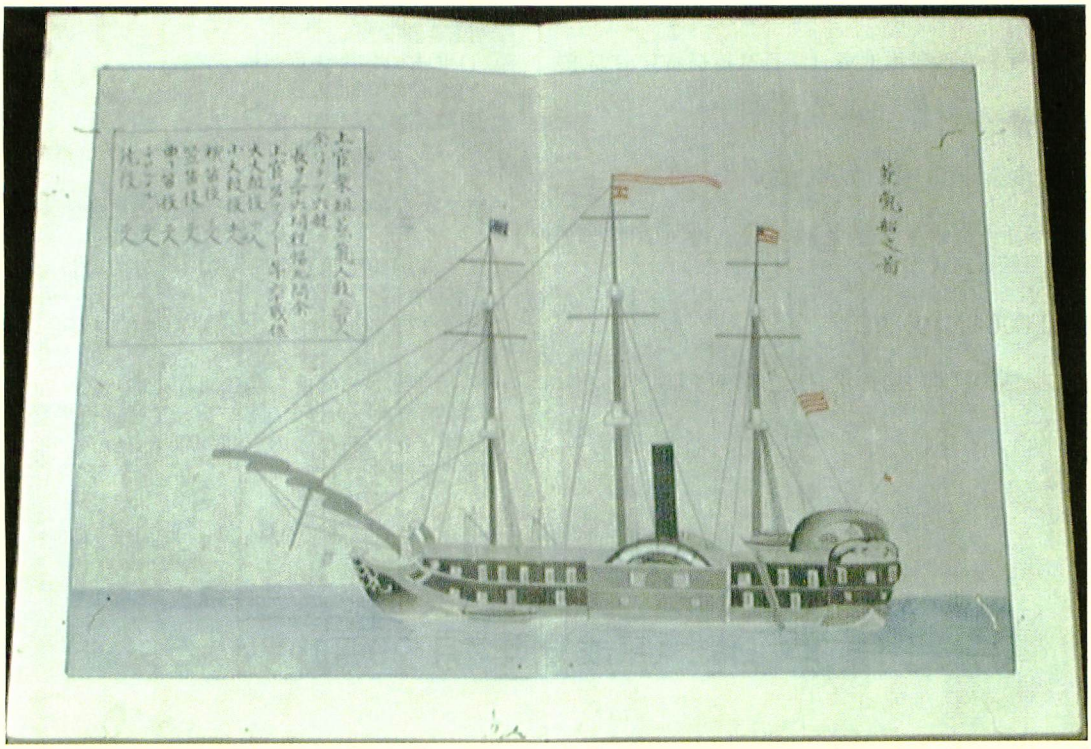
平成１４年度附属図書館貴重資料展

永青文庫の中の「明治維新」

《展　示　会》
期間　平成１４年１１月２日（土）
～４日（月）
会場　附属図書館（１ＢＦ）

《公開講演会》
演題　永青文庫の中の「明治維新」
講師　文学部助教授　三澤　純氏
期日　平成１４年１１月２日（土）
時間　１３時３０分～１５時
会場　附属図書館会議室（２Ｆ）

【出品資料】　「小倉出張図」　「琉球江渡来之仏朗人応答書」　「亜墨利加狂歌集」　「相州海岸図」
「猿島御台場之図」　「蒸気船之図」　「黒船図」　など総出品資料41点。



蒸気船之図（永青文庫蔵熊本大学附属図書館寄託）

編集後記　：初秋になってキャンパスにも学生達の姿が戻ってきました。そして、もうすぐ学園祭の季節になります。留学生の方々の本場中華料理を楽しみにしているのは、私だけでしょうか。

熊大の学園祭といえば、アルコールが主体といったイメージが強かったのですが、最近は子供も楽しめる模擬店が増えてきました。学生のための学園祭から地域の方々も参加できる学園祭へと変わって来ているように思われます。これも時代の流れでしょうか。

さて、今年も図書館では貴重資料展を「永青文庫の中の『明治維新』」というテーマで開催します。学園祭に来られた際には是非お立ち寄り下さい。　（あ）

熊本大学附属図書館報「東光原」（とうこうげん）*
第34号(Vol.11 No.4)
平成14年(2002年)10月 第34号（2002.10)発行

発行所　熊本大学附属図書館
〒860－8555 熊本市黒髪2-40-1
TEL:096（342）2273 FAX 096（342）2210
http：//www. lib. kumamoto-u.ac.jp/tokogen/
編　集　加藤信哉，　栂尾勝征，　安陪光恭，
北野典子，　中尾康朗，　森下和博

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。